

じょうこうじ

掟光寺だより

令和4年
10月号

行事案内

●10月10日(祝・月)
「お会式・像師会」

13時30分から



お会式えしき 日蓮宗?

お会式と検索すると現在では日蓮宗の開祖「日蓮聖人」の祥月命日に営まれる法要を指すことが多いですが、もともとは「法会の儀式」を略したものが「お会式」であり、特定の宗派の行事を指すものではありませんでした。

日蓮宗以外の宗派では、例えば、奈良県にある法隆寺では、聖徳太子の遺徳をたたえ供養するお会式が3月頃にあります。その他、宗派でもお会式という言葉が使われます。

日蓮宗の檀家・信者が日蓮聖人を偲ぶ姿が時代の流れと共に一般庶民へ広がり、庶民の行事へと変化していったことが「お会式」日蓮宗の日蓮聖人の忌日に開催する法要」となっていました。

なぜ池上本門寺が有名なのか?

お会式と聞くと、東京都大田区池上にある「池上本門寺」が有名です。これはこの池上の地が日蓮聖人が亡くなった場所だからです。

弘安5年(一二八二)の秋、日蓮聖人は誰の目から見ても、この冬は越せないだろうと思われ、ほど健康状態が悪くなられました。そこで、八年四か月過ぎられた身延山の地を離れ、常陸(現茨城県北東部)の湯へ養生に向かいます。



その途中の九月一八日に日蓮聖人の信者であった武蔵池上郷の地頭、池上宗仲邸に到着されまし

た。この時には筆を持ってない程弱られており、手紙を代筆で出されています。その内容には「墓をば身延の沢に」という遺言を残されました。この時のお手紙が日蓮聖人の最後のお手紙になります。

九月二五日、少し体調がよくなされた日蓮聖人は見舞いに来られた弟子や信者たちに「立正安国論」などの講義を約一か月間されました。そのご講義の時に日蓮聖人が寄りかかっていたとされる柱の一部は今でも日蓮聖人本山である池上・大坊本行寺の「臨終の間」に置かれて触れることができます。

十月八日、ついに病も重くなり臨終が近いと感じられた日蓮聖人は自身が亡くなったあと布教を任せる「六老僧」を決められます。
日昭・日朗・日興・日向・日頂・日持)。また、当時十二歳であった経一磨(のちの日像)には自身が成しえなかつた帝都(京都)の布教を命じられます。
十月十三日の辰の刻(午前七時(九時)、日蓮聖人は弟子・信者らに見守られながら御歳六一歳でそのご生涯を閉じられました。

日蓮聖人亡き後、池上宗仲は法華経の文字数(六九三三四字)に合わせられて、邸近くの約7万坪の

土地を寄進され、現在の池上本門寺ができました。

また、日蓮聖人の亡くなられた場所を自分の邸として使うことはとても恐れ多いことであるとして、自分の邸も寄進され、現在の池上本門寺ができ、池上宗仲の日蓮聖人に対する篤い信仰心がうかがえます。

秋なのに桜が飾られるのはなぜ?

お会式は秋に営まれるため、桜はその季節の花ではないです。しかし、お会式の万灯(提灯)に桜の造花を飾ることになっています。なぜでしょう?

これは、日蓮聖人が亡くなった時に桜の木が季節外れの花を咲かせたという故事に由来しています。この桜を「お会式桜」と言います。この桜は秋頃から咲き始め、翌年の春頃に満開になる珍しい桜です。現在でも池上本門寺や大坊本行寺の境内でお会式桜を見ることができます。

お会式桜で有名などころは京都の上京区にある本門法華宗の大本山妙蓮寺です。この桜の散った花びらを持ち帰ると恋が成就すると言われているそうです。

